

学校概要

創立 71 周年	学校長 廣 淵 徹 志	副校長 山 岸 和 美	学期 3 学期制	児童・生徒数 928 人
学級数 一般級: 24 個別支援級: 4		主な関係校: 岡津小・上矢部小・緑園東小・緑園西小・新橋小		

学校教育目標

- かけがえのない生徒一人ひとりの自己実現を支援するために
- ねばり強く学び続ける (知)
 - 善悪の判断ができ、相手の気持ちを大切にできる (徳)
 - 自他の生命を尊重し、心身ともに健康な生活ができる (体)
 - 地域社会の一員として行動する (公・開)

力を育みます。

学校の特徴

- 学区には、幼保・小・中・高・大の5校種があり、教育環境が整った地域である。
- 71年目を迎えた伝統校であり、地域・保護者の関心が高く、建設的な様々な意見を伺うことができる。
- 学区が広く、4連合町内会から形成されており、我がまちの学校であるという意識が強く、協力的である。
- 比較的経験の浅い教職員が多いが、活気のある職員集団であるために部活動も盛んである。
- 児童・生徒の健全育成のため、小中ブロック・地域との連携を強めたい。
- 地域・保護者は、学校の教育活動等を積極的に発信することを望んでいる。

学校経営中期取組目標

- 『チーム岡中』として、全教職員同じベクトルで未来を担う生徒の育成に取り組めます。
- ・「しっかり教え、しっかり引き出す」指導に取り組む、主体的に学ぶ姿勢を育てます。
- ・(挨拶を大切に、)自尊感情・自己肯定感を高め、互いの違いを認め合う人間尊重の精神を育てます。
- ・社会的視野を広げ、社会の一員としての自覚と責任を高めるとともに郷土愛を育てます。
- ・小中一貫教育を推進するとともに地域や家庭、関係機関との連携を深め、「地域に根付いた、開かれた学校」を目指します。
- ・全教職員が研修に努め、教師力の向上を目指し、学校経営に主体的に参加します。

小中一貫教育の取組

岡津中	ブロック	岡津中学校・岡津小学校・上矢部小学校・緑園東小学校・緑園西小学校
9年間で育てる子ども像	様々な人とのコミュニケーションを大切にしながら自分らしさを発揮し、地域の中で心豊かに生きる生徒	
自校の具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック合同授業研究会を実施し、「しっかり教え、しっかり引き出す指導」を進める。(年2回) ・ブロック合同研修会等で、義務教育9年間のスパンで育てよう、児童・生徒指導や特別支援教育の情報交換を行う。 ・体力向上の一貫としての部活動体験や生徒会による中学校説明会、運動会等へのボランティア活動など、児童・生徒交流を積極的にを行う。 	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	「しっかり教え、しっかり引き出す」指導に取り組む、主体的に学ぶ姿勢を育てる。個に応じた学習指導・支援を充実させ、授業改善に努める。	①校内授業研や小中一貫ブロック授業研において積極的に授業を公開し、ユニバーサルデザインを意識した「わかる授業」を目指す。 ②小中・各学年における分析チャートや生徒による授業評価を活用して授業改善を行う。 ③学習の習慣化に向けた「個に応じた朝自習」の質的充実を図る。
豊かな心	人権を尊重し、自尊感情や自己肯定感を高めることのできる生徒とともに挨拶を大切に、豊かな人間関係をつくることのできる生徒を育てる。	①道徳や人権教育を充実させ、自己を深く見つめ、より良く生きようとする生きる力の向上を図る。 ②体験学習や地域行事を通して、思いやり心や公共心を育成し、社会の一員としての自覚を高める。 ③子ども会議のテーマを基に生徒会による「あいさつ運動」をさらに浸透させる。また、確かな人権感覚・意識の向上を図るために人権作文・人権標語作りを全校で取り組む。
健やかな体	心と体を一体としてとらえ、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる。また、自己目標を設定し、実践力の育成と体力向上を図る。	①新体力テストの結果を基に、生徒一人ひとりが目標を設定し、体力の向上を図る。 ②健康や安全、環境について意図的・計画的に理解を深め、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。 ③小中ブロック交流による部活動体験や運動会へのボランティア活動、地域行事を通して、運動に親しむ資質や能力を育てる。
教育課程学習指導	学校教育目標、中期学校経営方針の周知徹底を図り、新学習指導要領についての研鑽を積む。また、「わかる授業」を充実させるため、学習目標や評価の明確化に努める。	①新たな中期学校経営方針とそれに伴う改訂した知・徳・体のプランの周知徹底を図り、それに基づいた教育活動の充実を推進する。 ②道徳の教科化に伴う評価の検討を含め、新学習指導要領等について、全教員に適宜情報を提供し、学び続ける教師として研鑽を積む。 ③学習目標(ねらい)や評価を明確にし、UDの視点を取り入れた授業に積極的に取り組む。
生徒指導	生徒一人ひとりの状況を共有し、早期発見・早期対応を図るために職員全体で取り組む。また、小中連携し、「生きる力」「基本的な生活習慣」が身につくように努める。	①YPAアセスメント等を活用し、生徒理解を深める研修を行うとともに相談活動を充実させ、生徒に寄り添った信頼関係の構築を図る。②保護者・地域・関係機関と連携するとともに職員間の報告・連絡・相談を密にし、問題の早期発見・対応に取り組む。③全職員での指導体制を構築するとともに改定したいじめ防止基本方針を周知・徹底し、いじめ根絶に向け取り組む。
特別支援教育	全教職員が個々の特性を理解し、個別的教育支援計画や指導計画を保護者と共有し、適切な指導・支援を図る。また、関係機関との連携を密に行う。	①特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育推進委員会で配慮を要する生徒に関する理解を深めるとともに支援計画・指導計画による適切な支援を行う。 ②S Cや外部関係機関と連携を図り、より適切な支援方法を探る。 ③UDやインクルーシブ教育等に関する研修を行い、職員の理解を深める。
地域連携	保護者や4連合町内会、5校種との連携を深め、「地域に根付いた、開かれた学校」を目指す。また、地域の教育力を活用し、生徒の健全育成と学校運営に生かす。	①学校だよりを毎月(年12回)発行し、積極的に学校の教育活動の様子を発信するとともに学校説明会やまち懇、学校HP等により中期学校経営方針等を含め教育活動への理解・協力を仰ぐ。 ②区や連合町内会等の行事や地域活動に、生徒の参加を含め積極的に協力し、連携を深める。 ③5校種の連携事業(音楽発表会)を開催し、自他を大切にできる豊かな人間関係の育成を図る。
人材育成・組織運営	全職員にキャリアステージに応じた自覚と目標を持たせ、校内外の研修により実践とチーム力を高める。また、チームとしての効果的な運営を進めるために職員の組織を改善する。	①学年組織と管理職による研修を実施し、経験の浅い職員の育成を図る。 ②研究授業や校内研修を意図的・計画的に実施するとともに打合せ等でも適宜情報を提供し、教師力の向上を目指す。 ③機能的かつ効果的な学校運営を目指し、学校組織及び校務分掌の見直しを行う。
いじめへの対応	互いの違いを認め合い、自他ともに尊重しあえる環境をつくる。また、支援を要する生徒への組織的な支援体制の強化を図る。	①全職員での指導体制を再構築するとともに改定したいじめ防止基本方針を周知・徹底し、いじめ根絶に向け取り組む。②校内いじめ防止対策委員会を含め、組織的に生徒一人ひとりの状況について把握し、未然防止、早期発見、早期対応に取り組む、適切な支援を行う。③社会的スキル横浜プログラムを様々な場面で積極的に活用する。